

自閉症生徒の不適応行動への効果的な支援のあり方を探る

—適切な行動の選択を促す支援を通して—

山形県立米沢養護学校 教諭 金子 達

自閉症は発達障がいの一つで、「対人関係が結びにくい」「コミュニケーションがうまくとれない」「強いこだわりを持つ」といった様々な生活・行動上のつまづきや困難さを有する。パニック、かんしゃく、自傷行動、他傷行動、こだわりの激しさ等のいわゆる「不適応行動」が見られることが少なくない。

不適応行動への対応は、その行動を禁止したりなだめたりする対処的な対応ではなく、一人の人間としてよりよい成長を促すという観点から検討すべきである。そのためには、認知的側面や行動面での特性、その行動がみられる状況等の様々な側面から、その行動の背景にある生徒の困難性や思いを含めて行動の要因を読み解き、場面毎に支援方法を検討していくことが大切である。

本研究では、特別支援学校中学部に在籍する不適応行動がみられる知的障がいを伴う自閉症生徒に対して、不適応行動の減少と適切な行動の促進を目指した指導実践を基に、以下の3つの観点から支援のポイントを明らかにした。

「観点1：実態把握（アセスメント）」のポイントは、生徒の特性・生活全体・不適応行動の前後状況を把握することである。これによって不適応行動の背景や要因を読み解き、支援の必要な場面や適切な支援方法の特定につながった。次に「観点2：環境づくり」のポイントとして、一人で首尾よくできる状況づくり、本人の自己決定を大事にしながら共に活動を整えていくことが重要である。最後に「観点3：教師の関わり」のポイントとして、絵カード等を用いて生徒の現在の理解力に応じた双方向的な関わり方を工夫すると共に、生徒ができたことを自覚できる支援が大切である。これらの支援を通して、生徒はよりよい活動を選択して主体的に活動するようになり、結果として不適応行動は減少した。

キーワード : 自閉症 不適応行動 実態把握 環境づくり 教師の関わり 主体的行動